

# 特許協力条約

PCT

REC'D 13 OCT 2005

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)  
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 PC-9342	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/015644	国際出願日 (日.月.年) 15.10.2004	優先日 (日.月.年) 21.10.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> H01L21/304, B08B3/08		
出願人 (氏名又は名称) 大日本インキ化学工業株式会社		

- この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☒ 附属書類は全部で 2 ページである。
    - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
    - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
  - ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
  - ☐ 第 II 欄 優先権
  - ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
  - ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
  - ☒ 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
  - ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
  - ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
  - ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受受理した日 19.08.2005	国際予備審査報告を作成した日 27.09.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 中川 隆司	3 K 8509
電話番号 03-3581-1101 内線 3332		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

## 第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-14 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 2-7, 9 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 1, 8 \_\_\_\_\_ 項\*、19.08.2005 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1, 2 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル  
配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)	請求の範囲 1-9	有
	請求の範囲	無
進歩性(IS)	請求の範囲 1-9	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-9	有
	請求の範囲	無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 11-70328 A (株式会社ウルトラクリーンテクノロジー開発  
研究所) 1999.03.16  
文献2: JP 11-139804 A (大日本インキ化学工業株式会社)  
1999.05.25

(請求の範囲1-9)

請求の範囲1-9に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1, 2のいずれにも記載されておらず、当業者にとって自明のものでもない。

## 請求の範囲

1. (補正後) 主流体用流通管に流通する主流体に、連続的に被供給液を供給し溶液を調製する液供給方法であって、

被供給液を送出する供給部と、該供給部からの被供給液を前記主流体用流通管に向けて流す被供給液用流通管とを備え、該被供給液用流通管の内径が0.01～1mmとされた液供給装置を用い、

被供給液を、前記供給部から前記被供給液用流通管を通して前記主流体用流通管に供給するに際して、供給部における被供給液の圧力 $P_1$ と、主流体用流通管における主流体の圧力 $P_2$ が常に次の式を満たすようにすることを特徴とする液供給方法。

$$P_1 - P_2 > 0$$

2. 被供給液用流通管は、中空糸状に形成されている請求項1に記載の液供給方法。

3. 主流体が超純水であり、被供給液が電解質水溶液である請求項1に記載の液供給方法。

4.  $P_1 / P_2 = 1.01 \sim 10$ である請求項3に記載の液供給方法。

5. 被供給液が供給された主流体の電解質濃度が0.00001～0.1質量%であることを特徴とする請求項3に記載の液供給方法。

6. 被供給液の供給量が0.001～10 cm<sup>3</sup>/分である請求項3に記載の液供給方法。

7. 被供給液の流量 $X$ と、主流体の流量 $Y$ との比 $X/Y = 1/1000000 \sim 1/1000$ である請求項2～6のうちいずれか1項に記載の液供給方法。

8. (補正後) 主流体用流通管に流通する主流体に、連続的に被供給液を供給し溶液を調製する液供給装置であって、

被供給液を送出する供給部と、該供給部からの被供給液を前記主流体用流通管に向けて流す被供給液用流通管とを備え、該被供給液用流通管の内径が0.01～1mmとされ、

被供給液を、前記供給部から前記被供給液用流通管を通して前記主流体用流通

管に供給するに際して、供給部における被供給液の圧力  $P_1$  を、主流体用流通管における主流体の圧力  $P_2$  に対し常に次の式を満たすように設定可能であることを特徴とする液供給装置。

$$P_1 - P_2 > 0$$

9. 被供給液用流通管は、中空糸状に形成されている請求項 8 に記載の液供給装置。